

局の動き

★ 各部の動きをチェック! ★

運輸部

第8回沖縄地区舟艇利用振興対策連絡会議の開催

舟艇利用の健全な普及、振興を図ることを目的として、沖縄総合事務局運輸部、開発建設部、第十一管区海上保安本部、沖縄県等関係行政機関と日本小型船舶検査機構沖縄支部等関係団体を構成メンバーとした第8回沖縄地区舟艇利用振興対策連絡会議を平成17年2月14日に開催しました。

今回の会議では、(日)プレジャーボートの利用をめぐる取り組みについて(国土交通省)、(月)港湾におけるプレジャーボート対策の現状について(開発建設部)、(火)海難発生状況について(第十一管区海上保安本部)、(水)小型船舶登録状況について(日本小型船舶検査機構沖縄支部)、(木)マリンレジャーの活性化に向けた小型船舶制度の整備等について(運輸部)の議題で提出された資料説明をもとに意見、交換が行われました。

国土交通省の取り組みとして、平成12年から15年度までの4年間「FRP廃船高度リサイクルシステム構築プロジェクト」を実施。平成16年春より具体的なリサイクルのあり方について業界と検討中で、平成17年秋ごろから地域限定でリサイクル事業を開始し、平成19年度には全国へリサイクル事業を展開する予定であることやその他の施策の説明がありました。



開発建設部

「親しまれる港」を～第1回みなどセミナー開催～



みなどセミナー実行委員会が主催(沖縄総合事務局後援)し、みなど観光をテーマとした「みなどセミナー」が平成17年1月13日に那覇市内で開催されました。

セミナーでは、「那覇の都市観光とみなどの魅力づくり」と題し、岩佐吉郎氏

(名桜大学大学院客員教授)より基調講演を頂き、パネルディスカッションでは、「市民・観光客に親しまれるウォーターフロントづくり」をテーマに、伊良皆善子氏((有)プロジェクトZenko代表)

をコーディネーターに、岩佐吉郎氏、石原悦子氏(カラーシンフォニー代表)、東良和氏(沖縄ツーリスト社長)、今井輝光氏(伊平屋村農漁村体験観光「海の学校」校長)、久米秀俊氏(国交省港湾局民間活力推進室長)により、それぞれ

の立場から、「親しまれる港」について様々な持論が展開されました。会場には、港湾関係者、観光関係者、市民など、約130名の方の参加があり、積極的な質問等、有意義なセミナーになりました。



開発建設部

「“美ら島沖縄”風景づくり検討会」の開催について

沖縄は、自然環境面・文化面において、個性的で貴重な特性を有しており、これは他の地域にはない魅力・資源であり、今後、沖縄の特性(沖縄らしさ)を十分に活かした沖縄振興を推進していくことが求められています。

しかしながら、これまでの沖縄における地域振興を進めるに当たっては、社会資本の整備等の諸政策を着実に進め、経済面・生活面での相応の成果が上がってきたものの、必ずしも満足のいく「沖縄らしい景観」の創出がなされたといえない面があります。

こうしたなか、美しい国づくりのための具体的な策をとりまとめた「美しい国づくり政策大綱」が平成15年7月に、更に、我が国において、初めて「景観」に関する総合的な枠組みである「景観法」を含む景観緑三法が平成16年6月に成立しました。

このため、内閣府振興局と沖縄総合事務局において、沖縄らしい風景づくりに寄与する社会資本整備のあり方として、「『“美ら島沖縄”風景づくり』のガイドライン(仮称)」の検討を平成16年度より進めているところです。

その検討委員会として、「美ら島・沖縄づくり検討委員会」の第1回目の委員会を以下のとおり開催しました。

日 時 平成17年3月7日(月)
PM2:00～PM5:00

場 所 かりゆしアーバンリゾート那覇
(6Fシェルホール)

委員会メンバー

琉球大学教授	池田 孝之
名桜大学客員教授	岩佐 吉郎
沖縄県土地改良事業団体連合会農地整備部次長	来間 玄次
琉球大学教授	高良 倉吉
沖縄県経済団体会幹事会議長	仲里 全輝
(株)都市科学政策研究所 □ 代表取締役	備瀬 ヒロ子
(財)沖縄観光コンベンション ピューロー会長	松本 行雄
京都府立大学助教授	宗田 好史
(有)資源デザイン研究所 代表取締役	海津 ゆりえ
東京大学助教授	中井 祐
作家	荒俣 宏

経済産業部

「平成16年度物流効率化セミナー」を開催



経済産業部では、去る2月8日、沖縄産業支援センターにおいて、独立行政法人中小企業基盤整備機構との共催で「平成16年度物流効率化セミナー」を開催しました。

本セミナーは、卸売業者、荷主業者、物流事業者等を対象に物流効率化(共同化・情報化)による経営改善及び環境負荷低減策を講じることの必要性とそれに対する理解を深めることを目的として行っています。

今回のセミナーでは、「物流アウトソーシングとパートナーシップ」と題して重田靖男氏((株)東京ロジスティクス研究所顧問)と、引き続き「企業物流の現状と将来」と題して湯浅和夫氏((株)湯浅コンサルティング代表取締役社長)による講演が行われました。

講演会場には、卸売業者、物流事業者など多くの関係者がつめかけ、参加者のなかから「身近な例を基に説明いただきたいので大変わかりやすかった」、「物流全体のムダの見直しを図る必要性を痛感した」等の意見が挙がるなど、物流効率化への取組に対する熱意が窺われました。

農林水産部

「メール de 食育」標語コンテスト受賞者決定!

平成17年1月24日(月)コープおきなわ新都心店(那覇市おもろまち)において沖縄総合事務局農林水産部主催「メール de 食育」標語コンテストが開催されました。「メール de 食育」標語コンテストは、日頃から「食」について考える習慣を身につけてもらうことを目的に推進される「食を考える月間(毎年1月)」にちなんで「食」に関する標語を広く募集したもので、県内外から693作品(応募者数597名)の応募がありました。

優秀作品の選考には大城正大琉球調理師専修学校長、山里美江子食育推進ボランティア・管理栄養士、竹林義久沖縄総合事務局長、秋本佳則農林水産部長の4名が当たり、厳正な審査の結果、沖縄総合事務局農林水産部長賞(1点)、沖縄総合事務局農林水産部長賞(1点)、入選(5点)に以下の作品が選ばれました。

■沖縄総合事務局長賞

「食卓を囲んで深める家族の絆」
那覇市立石田中学校3年
仲村 奈笑なかむら なえみん

■沖縄総合事務局農林水産部長賞
「朝ごはんみんなのパワーの源だ」
浦添市立前田小学校6年
新垣 碧あらかき みどりん

■入選

「食卓に安心が見える島野菜」
那覇市首里 大浦 和香子おおうら わかこさん
「欠かさず残さずしっかり食べよう朝ごはん」

沖縄県立コザ高校定時制2年
玉那霸 彩音たまなは あやねん

「健康は、食からもらった宝物」
那覇市首里 白坂 和子しらさか かずこん

「好き嫌い無くして健康いただきます」
那覇市立石嶺中学1年
金城 栄徳きんじょう ひでのぶん

「色どりと栄養考え方 健康一番」
本部町立崎本部小学5年
湧川 唯わくがわ ゆしきん

長寿県と言ってきた沖縄県は最近では各方面から「食」の乱れが指摘され「食」のあり方に警鐘が鳴らされています。これを機に、今後ますます県民一人一人に「食」について関心をもっていただき、健康に結びつく食のあり方が見直されることを期待します。



財務部

金融庁 五味長官来沖

去る2月3日、4日の両日、五味金融庁長官が管内の金融情勢視察のため来沖されました。

五味長官は、仲井真那霸商工会議所会頭を訪問し、沖縄経済の実情等について意見交換をされたあと、沖縄振興特別措置法に基づき金融業務特別地区に指定されている名護市のマルチメディア館、みらい館及び名護商業高校ファイナンス学科(名護市の金融特区構想に対応して設置された全国初のファイナンス科)を視察されました。このほか、稻嶺知事、岸本名護市長を表敬訪問され、夕刻には、当局会議室において管内金融機関幹部との意見交換を行い、終始各金融機関幹部からの話に熱心に耳を傾けられました。

実質的に、1日という非常にタイトな日程ではありましたがあまりましたが、無事視察等を終了され、那覇空港を後にされました。



財務省 細川事務次官来沖

去る2月22日、23日の両日、細川事務次官が管内視察のため来沖されました。

細川次官は、当局会議室において管内概況の説明を受けられたあと、財務部事務室に足を運び各課の職員を激励されました。また、稻嶺知事の訪問をはじめとして、来る4月に開催されるIDB沖縄総会の主会場の一つである沖縄コンベンションセンターや、恩納村に整備された海ぶどう養殖施設等の視察も行われました。

短い滞在期間にもかかわらず、沖縄国税事務所、沖縄地区税闘を含め、沖縄における財務省地方出先機関の実情や沖縄管内の把握を精力的に行われました。

